



埋文だより

第29号

平成14年7月4日発行

新埋蔵文化財センター，国分市にオープン

－「上野原縄文の森」に約2倍の広さで完成－



国分市上野原にオープンした「新埋蔵文化財センター」

国分市にある「上野原縄文の森」で建設が進められていた新しい鹿児島県立埋蔵文化財センターは3月に完成し、この4月から各種の業務を開始しました。

新しい埋蔵文化財センターは、出土遺物を収蔵する一般収蔵庫を中心に総面積がこれまでの約2倍となり、資料などの増加による保管場所不足の解消などに大いに役立つこととなりました。また、精密分析室や写場などに新しい機器を導入し、調査・研究機能の充実が図られました。さらに、「南の縄文調査室」が新たに設置されました。調査室は、南の縄文文化に関する総合研究を行うこと、出土品の保存処理や化学分析などの理化学的研究を行うこと、市町村及び県内外関連施設や遺跡とのネットワーク化と情報の共有化をはかることの三つを目的としています。今後、上野原遺跡を中心とした情報発信の中核として期待されています。

当センターは、同じ「上野原縄文の森」に10月にオープンが予定されている展示館と連携を図り、展示活動、啓発・普及関係の各種イベントなどで文化財に対する県民の正しい理解と認識を深める機会をつくっていきたいと考えています。

人・もの・情報のネットワークをつくる拠点としてスタートした新埋蔵文化財センターが、県民に親しまれる施設となるよう努力していききたいと思います。

目次

	ページ
・新埋蔵文化財センター，国分市にオープン －「上野原縄文の森」に約2倍の広さで完成－	… 1
・南の縄文調査室から	… 2
・新埋蔵文化財センター施設紹介	… 2・3
・平成14年度発掘調査計画	… 4・5
・埋蔵文化財センター移転	… 6
・各種ご案内	… 6

鹿児島県立埋蔵文化財センターの見学は、
土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時、
入館料は無料です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

新埋蔵文化財センター^{し せつしょうかい}施設紹介

－南の縄文調査室－

国分市に移転し、新しく生まれ変わった埋蔵文化財センターに新しい部屋ができました。その名も「南の縄文調査室」。ここは上野原遺跡や南九州の縄文時代を中心に、いろいろな視点から調査研究を行うために設立されました。

調査室では考古学とその関連分野^{かんれんぶんぎょう}について研究紀要^{けんきゅうきよう}を編集したり、全国各地の施設や遺跡と交流を深めていくための遺跡ネットワーク^{いせきネットワーク}の構築や遺跡・遺物のデータベース化の作業を進めています。また、遺跡から出たものの理化学的^{りかがくてき}な分析や、木製品、金属製品の保存処理事業^{ぼんざんじゆりじぎょう}も行っています。

今後、南九州の縄文時代を中心に当時の人びとの生活や自然環境を復元するためにいろいろな方法でアプローチしていきたいと考えています。



南の縄文調査室



埋蔵文化財センターの施設

①水洗い・乾燥室

遺跡で発掘された遺物は、水洗いをして砂や泥を落とします。

②出土品整理室、実測・製図室

遺跡で出土した遺物は、水洗い後、注記・接合・復元・実測・トレース・レイアウト等の作業を経て一冊の報告書にまとめ上げられます。ここではその報告書作成のための作業を行っています。平成14年度は31か所の遺跡について整理作業が進められており、約130名の作業員が報告書作成事業に携わっています。



出土品整理室、実測・製図室

③一般収蔵庫

当センターの発掘調査で出土した遺物が収蔵されています。収蔵庫内の棚は1階と2階からなり、総数約50,000箱の遺物収納ケースが収蔵できます。現在約35,000箱のケースが収められています。2階には主に、整理作業を終了し報告書が刊行された遺物が収蔵されています。また1階には主に、整理作業途中の遺物や、これから整理作業される予定の遺物が収められています。



一般収蔵庫

④図書室

県内外の報告書や文献を収集し保管しています。11列ある本棚には、現在約30,000冊の本が収められています。10月の縄文の森オープン以降は、パソコンで閲覧したい本を検索するなどして、図書室を自由に利用していただけるよう準備を進めています。



図書室

⑤精密分析室

ここでは理化学的な機械を使って遺跡で出土したものを様々な方法で分析しています。分析機器類には、試料を20万倍まで拡大して観察できる走査型電子顕微鏡や試料に含まれる元素の種類と割合を測定することができるX線分析装置などがあります。

主な分析作業は土器などに付着した顔料や火山ガラスを観察・分析し、その種類や成分が何であるかを調べ、当時の人々の生活や自然環境を復元するのに役立っています。ほかにもいろいろな分析方法がありますが、今後少しずつデータを蓄積して研究を進めていきたいと考えています。



精密分析室

⑥鉄器処理室

遺跡の調査をしていると土器や石器の他に、鉄や銅でできた製品や「古銭」と呼ばれる昔のお金が出土することがあります。鉄器処理室ではこれら金属製品のさびを落とし、金属製品に含まれる塩分や水分を除去して薬品をしみこませ保存するという作業を行っています。さび落としには「エアーブラシ」という機械を使ってアルミの粉を吹きかけ、その吹きかける力でさびを落としていきます。さび落としは細かくて根気のいる作業です。



鉄器処理室

⑦木器処理室

木器とは木で作られた昔の生活道具のことです。昨年度は川内市の京田遺跡で杭列や木簡など多くの木器が出土しました。木器は川、湖の近くの「低湿地」と呼ばれる場所でよく出土します。このような場所で長い間水分に守られていたため、水中から取り出すとすぐにひらびて変形してしまいます。木器処理室ではそのような乾燥や変形を防ぐために、薬品を使って木製品の保存処理を行っています。木製品に薬品をしみこませる作業は数か月から1年もの時間がかかります。

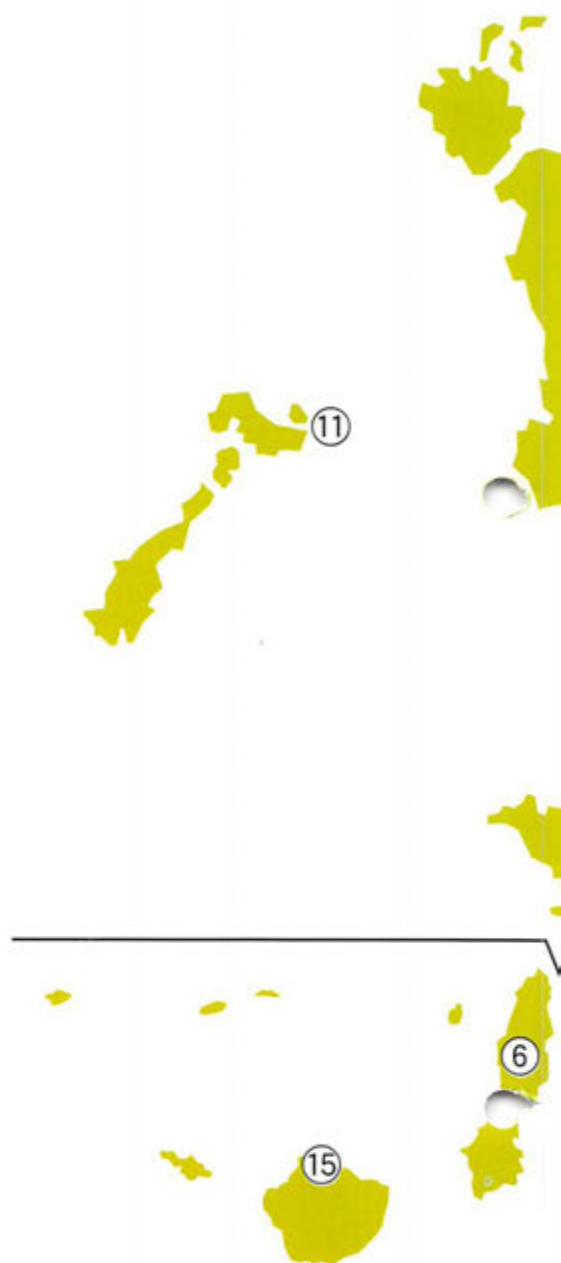


木器処理室

	遺跡名	所在地	期間	種別
1	農開総センター遺跡群	金峰町	4～3月	●
2	芝原遺跡ほか	金峰町	4～3月	●
3	古市遺跡ほか	川辺町	4～3月	●
4	仁田尾中B遺跡ほか	松元町	4～3月	●
5	牧ノ原B遺跡	松山町	6～11月	●
6	三角山遺跡	中種子町	8～12月	●
7	東郷坂A遺跡	知覧町	7～8月	●
8	松ヶ尾遺跡	有明町	1～3月	●
9	荒木遺跡	喜界町	3月	●
10	青戸上遺跡	額娃町	4～5月	▲
11	中町馬場遺跡	里村	4月	▲
12	油須木城遺跡	郡山町	5～6月	▲
13	新田・吉元遺跡	輝北町	4～5月	▲
14	大峰遺跡ほか	菱刈町	4～5月	▲
15	火ノ上山遺跡	上屋久町	5月	▲
16	山田半田B遺跡	喜界町	5月	▲
17	諏訪ヶ原遺跡	東郷町	5～6月	▲
18	野中遺跡	日吉町	5月	▲
19	広坂下北遺跡	鹿児島市	7月	●
20	宮内遺跡	蒲生町	6月	▲
21	下堀遺跡	大崎町	7～3月	▲
22	大隅国分寺跡	国分市	8～9月	▲
23	栢木遺跡	内之浦町	9月	▲
24	住吉貝塚	知名町	9月	▲
25	鶴ヶ岡遺跡	東郷町	9月	▲
26	向原遺跡	松元町	9～10月	▲
27	額娃城跡	額娃町	11～12月	▲
28	高山城跡	高山町	11～12月	▲
29	川津原遺跡	牧園町	協議中	▲
30	椿城跡	串木野市	5～3月	■
31	市堀遺跡	市来町	5～8月	■
32	根木原遺跡	鹿屋市	5～8月	■
33	唐尾遺跡ほか	末吉町	4～3月	●

●県事業 ▲市町村事業 ■国事業

平成14年度発掘調査計画

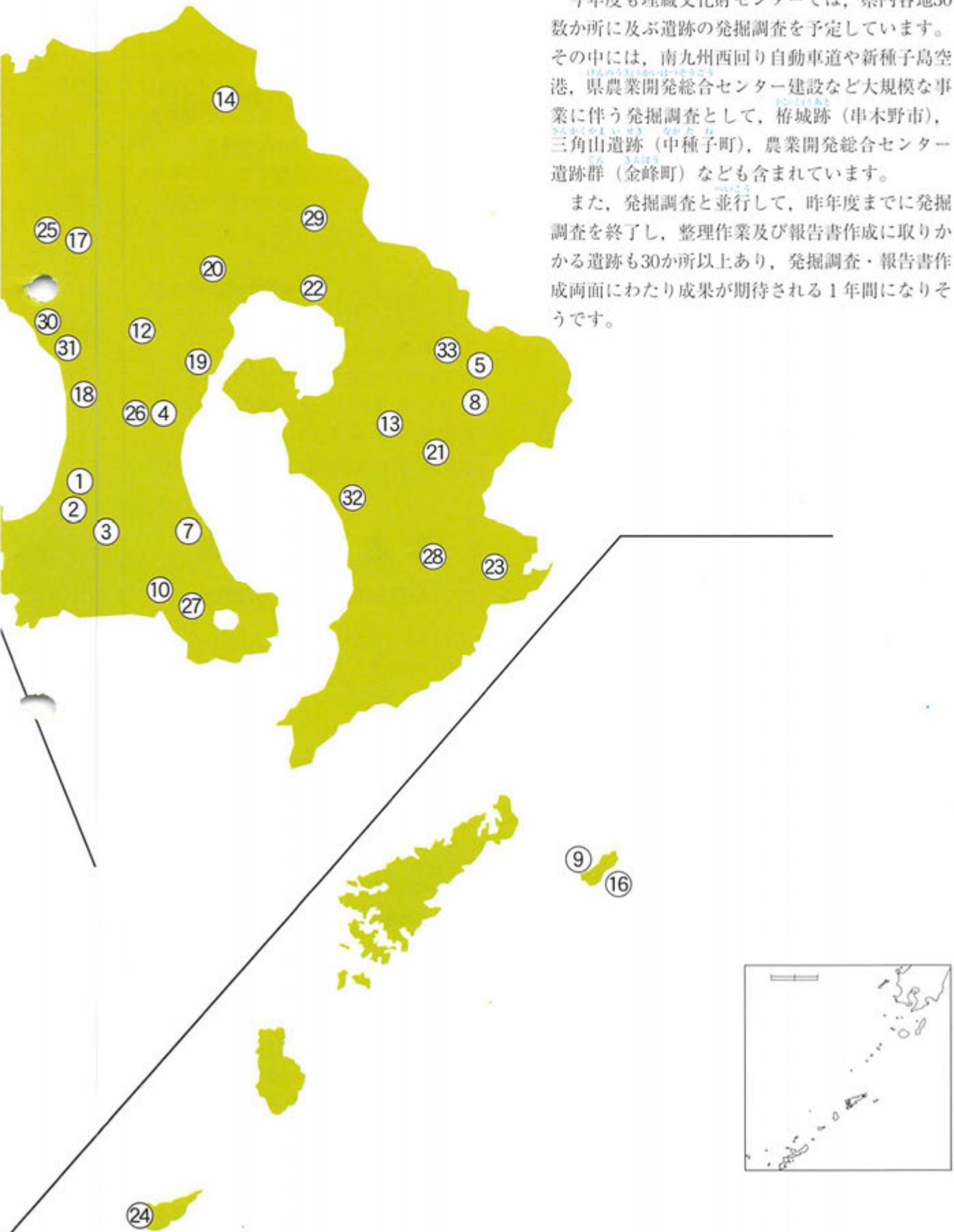


各遺跡の詳細等については当センターまたは各市町村教育委員会へお問い合わせください。また、調査期間中は、可能な限り職員が案内いたします。見学・発掘体験等お申し込みください。

平成14年度に発掘調査が行われる主な遺跡

今年度も埋蔵文化財センターでは、県内各地30数か所に及ぶ遺跡の発掘調査を予定しています。その中には、南九州西回り自動車道や新種子島空港、県農業開発総合センター建設など大規模な事業に伴う発掘調査として、**楳城跡**（串木野市）、**三角山遺跡**（中種子町）、**農業開発総合センター遺跡群**（金峰町）なども含まれています。

また、発掘調査と並行して、昨年度までに発掘調査を終了し、整理作業及び報告書作成に取りかかる遺跡も30か所以上あり、発掘調査・報告書作成両面にわたり成果が期待される1年間になりそうです。



埋蔵文化財センター移転

— 始良町から国分市へ —

昭和50年に始良町の保養院（現始良病院）隣接地に前身の鹿児島県教育庁文化課埋蔵文化財収蔵庫が設置され、平成4年4月に県立埋蔵文化財センターとして開所して以来、長年にわたり慣れ親しんできた始良町平松から平成14年4月、国分市上野原に移転しました。

10年間を過ごした旧埋蔵文化財センターは、古墳時代の竪穴住居跡や古代の溝などが発見された平松原遺跡に、新埋蔵文化財センターは、南九州の縄文時代を代表する遺跡である上野原遺跡にそれぞれ建設されました。太古の人々の生活の足跡のある地に活動の拠点を置いているわけです。



移転の様子

移転に際して、図書室の報告書や参考図書、職員の机や椅子の運搬と共に、最大の仕事量となったのは、近年の発掘調査の数と成果を表す3万箱以上に及ぶ土器・石器等の収蔵遺物です。搬出の際には行き先が不明にならないように、遺物を収納してあるパンケースひとつひとつに番号を貼り付け、新しい収蔵庫での管理と作業の効率化を図りました。

旧埋蔵文化財センターは、展示施設や体験コーナーを備えた「防災センター」として生まれ変わります。

上野原の新埋蔵文化財センターは、整理作業など中の様子を見学することができます。お立ち寄りください。

長期研修講座

— 専門職員を目指して —

市町村において専門職員を目指す職員に対して、平成14年度「埋蔵文化財専門職員養成講座（長期研修講座）」が実施されます。本講座は、埋蔵文化財に関する専門的な講義と発掘調査・整理作業の実習を6か月間で行う講座です。本年度で11年目を迎え、昨年度までに47市町村58名の長期研修生が巣立ち、各市町村で活躍しています。期日・受講生（5名）は下記のとおりです。

期日：平成14年6月4日～平成14年12月3日
受講生：

開聞町教員委員会：園田哲士主事
東市来町教育委員会：枝元泰生主事
大隅町教育委員会：加塩英樹主事
財部町教育委員会：大重敬八郎主事
田代町教育委員会：田代眞介主事補

考古学講座

— 新任教職員初任者研修 —

本年度採用の教職員を対象にして、8月19・20日に考古学講座（定員80名）が実施されます。1日目は埋蔵文化財センターにおいて、考古学の基本的なことがらについての講義と土器の接合体験。2日目は串木野市の柵城跡において、古代の生活体験と発掘体験となっています。本講座での体験を各学校での活動に活かせば幸いです。

埋文だより 第29号

発行日：平成14年7月4日

編集・発行

鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-4461

鹿児島県国分市上之段1175番地1

TEL 0995-48-5811

FAX 0995-48-5820

E-mail: maibun@po.pref.kagoshima.jp